

2016年7月14日

各 位

大阪中小企業投資育成株式会社  
代表取締役社長 齋藤 浩  
(大阪市北区中之島3-3-23)

## 投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。

結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点 : 2016年6月中旬

調査対象先 : 当社投資先企業902社

回 答 数 : 611社

回 収 率 : 67.7%

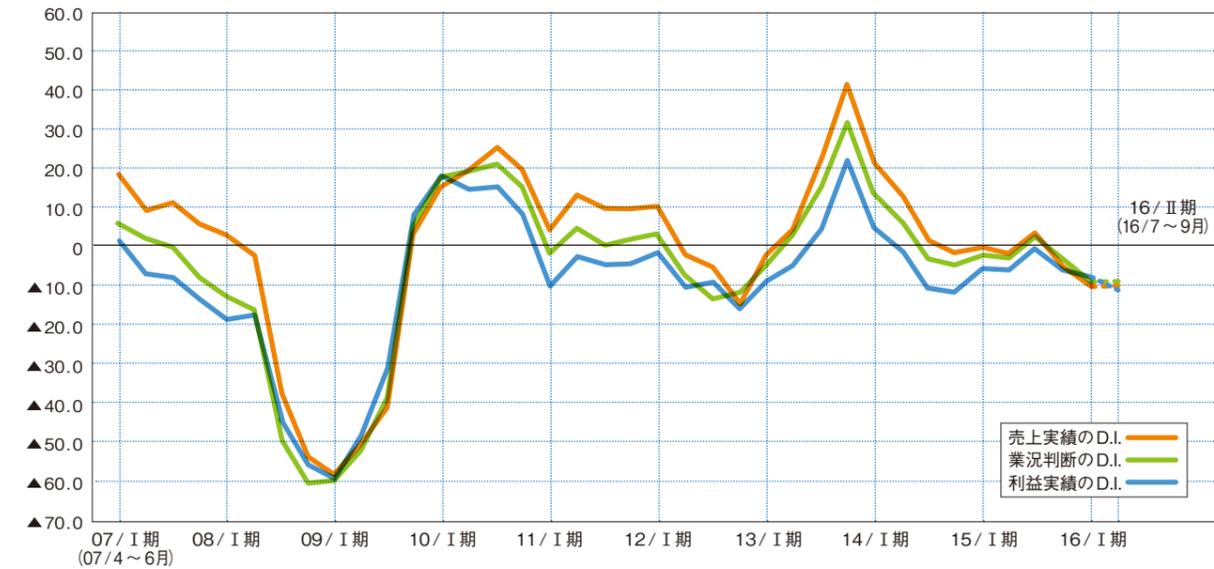
---

◇本発表に関するお問い合わせ先 事業支援部 福山 裕人 電 話 : 06-6459-1700 メー ル : pr@sbic-wj.co.jp
--

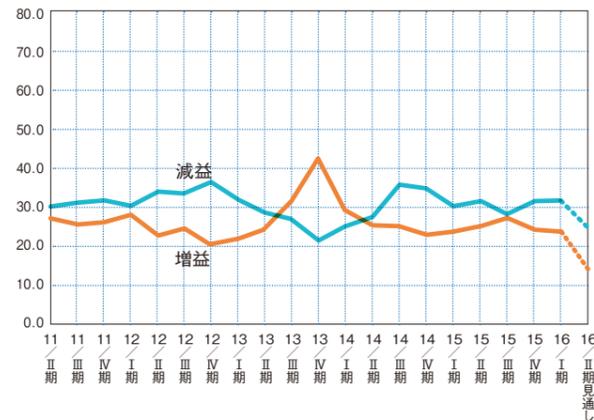
# いずれの指標も悪化し、不確実性高まる

投資先企業の2016年第1四半期の景況アンケートによると、2016年4～6月期の売上実績、利益実績、業況判断の各D.I.は前四半期と比べ、いずれの指標も悪化した。次期四半期の見通しも、ほぼ横這いしないし、悪化を見込むなど慎重姿勢を崩しておらず、不確実性が高まっている。

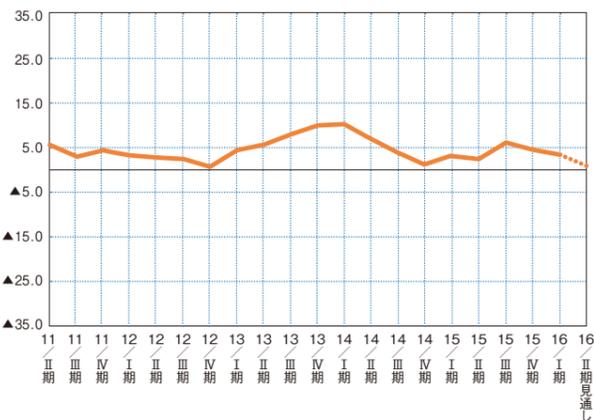
売上及び利益実績・業況判断のD.I. (前年同期比) の推移



利益実績の増減益割合 (前年同期比) の推移



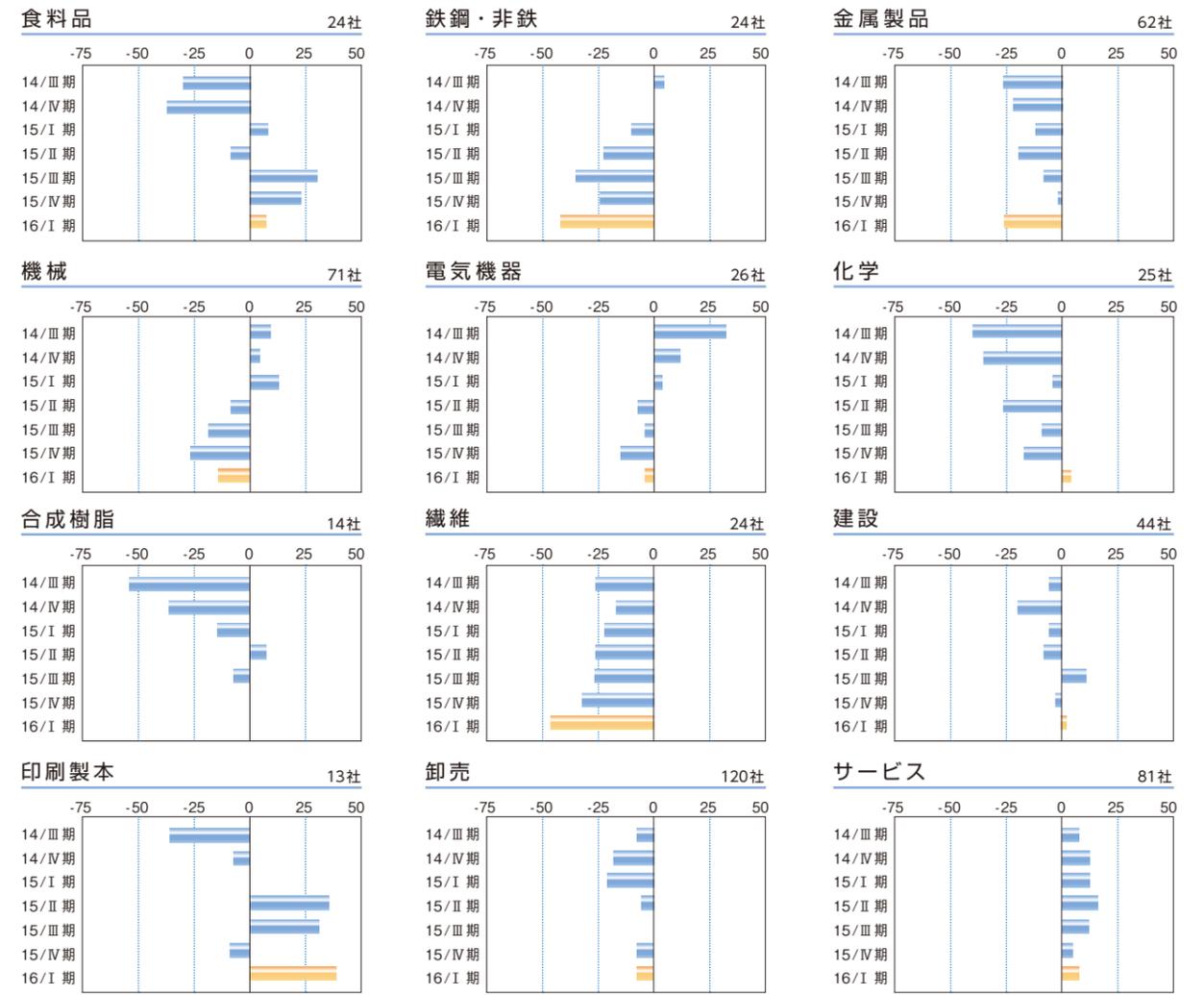
資金繰り実績のD.I. (前年同期比) の推移



- ① 2016年4～6月期の売上実績D.I. (増収企業割合-減収企業割合)は前四半期の▲5.5から▲10.5へ、利益実績D.I. (増益企業割合-減益企業割合)では▲6.9から▲8.2へ、業況判断実績D.I. (好転企業割合-悪化企業割合)は▲2.8から▲9.7へ、いずれの指標も悪化した。前四半期から連続の悪化となり、利益実績D.I.は8四半期連続のマイナスとなった。
- ② 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2016年4～6月期ではマイナスを示しているのは6業種で、前四半期の9業種より減少したが、鉄鋼・非鉄、金属製品、繊維は悪化幅が拡大し、厳しい環境が続いている。一方、前四半期から指標が改善したのは6業種で、化学、建設、印刷製本がマイナスからプラスに転じた。
- ③ 2016年7～9月の見通しD.I.は、2016年4月～6月期の売上実績D.I.▲10.5から見通しD.I.▲10.2へ、利益実績D.I.は▲8.2から見通し▲11.1へ、業況判断D.I.は▲9.7から見通し▲

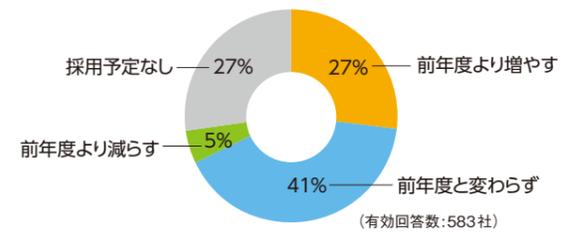
9.2へと、ほぼ横這いしないし、悪化を見込んでいる。利益実績の増減割合で見ると、増益を見通す企業が9.7ポイント減少する一方、減益を見通す企業も7.0ポイント減少しており、先行きには慎重な姿勢を崩していない。なお、7月発表の日銀短観では、中小企業の景況感は軒並み悪化しており、全産業全業種の業況判断D.I.でも前四半期から連続の悪化となっている。先行きについても、依然慎重な姿勢が続いている。また、今回調査では、6月24日に判明した英国国民投票によるEU離脱派勝利の影響が殆ど反映されておらず、為替動向次第では一段の下振れを懸念する声もある。国内においても、4月に発生した熊本地震や梅雨前線の停滞による局地的な大雨、消費税の延期、訪日客の鈍化、選挙等さまざまな要因が積み重なっていくなか、景況への不透明感は依然拭えず、不確実性が高まっているといえよう。

主要業種別利益実績のD.I. (前年同期比) の推移

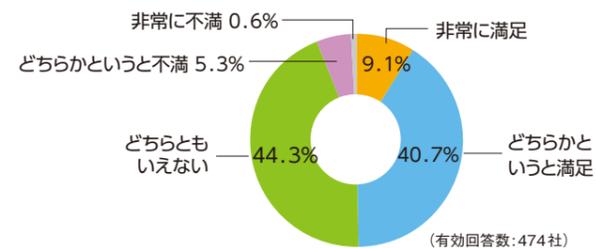


## 採用状況 & 新入社員アンケート結果

2017年度の新卒採用予定人数 (前年度比)



2016年度の新入社員の満足度



2017年3月 (来年卒業予定の新卒者の就職活動スケジュール)は、大企業を中心に、選考開始時期が従来の8月から6月へと、2カ月前倒しになりました。また、企業によってはそれ以前から採用活動を開始することもあり、優秀な人材の獲得競争が激化する傾向にあります。そこで今般、投資先企業の採用状況についてアンケートを実施しました。来年の投資先企業の採用は、「前年度より増やす」が27%、「前年度と変わらず」が41%と、引き続き旺盛な人材獲得意欲がうかがえるものの、一方で「前年度より減らす」が5%あり、「採用予定なし」とした企業27%と併せ、約1/3が新卒者の採用に消極的な状況にあります。また、今年度に入社した新入社員の満足度については、「非常に満足」9.1%、「どちらかという満足」40.7%と併せ、約半数近くの企業が、現在のところ質の面では肯定的な評価をしています。「どちらともいえない」44.3%とした企業についても、今後の教育や研修をはじめ、現場や得意先での経験を経るにしたがって、評価が定まってくるものと思われます。